



こども安心
くらし安全 IHA

伊波洋一^前市長を激励訪問

基地は県外・県内移設反対！



JR総連は1月30日、沖縄・宜野湾市を訪問し、伊波洋一前市長を激励した。伊波洋一氏は2008年、『ICLS沖縄フォーラム』へ現職市長として参加していただいている。

新『防衛大綱』には米軍と共同の「南西シフト」軍事態勢が明記され、那覇への戦闘機部隊増強や与那国への沿岸監視部隊配備をはじめとした「島嶼部防衛」による自衛隊大増強計画が盛り込まれている。宜野湾市では、米軍普天間飛行場の辺野古移設での『環境影響評価書』提出をめぐり、昨年12月、「ダンボール搬入騒動」に繋がった。また、今年1月31日の衆議院予算委員会で、真部朗沖縄防衛局長が宜野湾市の選挙にあたり、市在住の親族有権者の調査・提出を指示。さらに選挙権行使に関する内容などでの局長「講話」を聴講するよう電子メールを発して

いたことも明らかになっている。

そうした中で沖縄普天間基地が所在する宜野湾市の選挙は沖縄県内移設推進派による多数派工作が熾烈化し、米軍基地移設や日本の防衛問題を左右する重要な選挙として国内外から注目されている。

伊波氏は、「選挙はアメリカが注目している」「選挙で保守系が勝つか、革新系が勝つかで、今後の基地問題に大きな影響が出る」「絶対に負けられない」と熱い意気込みを語った。

武井委員長は「沖縄米軍基地の辺野古移設を断固阻止するため、平和運動を今後も『伊波洋一氏』と連帯して闘う」とエールを送った。

JR総連は、沖縄防衛局の介入を許さず「基地は県外・沖縄県内移設反対」を掲げ、伊波洋一氏を応援する。